

主な医薬品とその作用

問1 かぜの発症と諸症状、かぜ薬の働きに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぜの症状は、生体にもともと備わっている免疫機構によってウイルスが排除されれば自然に治る。
- b かぜは、主にウイルスが鼻や喉などに感染して起こる単一の疾患である。
- c かぜは、発熱、咳、鼻水など症状がはっきりしている場合には、効果的に症状の緩和を図るため、総合感冒薬ではなく、解熱鎮痛薬、鎮咳去痰薬、鼻炎用内服薬などを選択することが望ましい。
- d インフルエンザ（流行性感冒）は、感染力が強く、また、重症化しやすいため、かぜとは区別して扱われる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	正
3	正	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問2 かぜ薬に配合される成分のうち、抗ヒスタミン成分に該当しないものはどれか。

- 1 フマル酸クレマスチン
- 2 メキタジン
- 3 マレイン酸クロルフェニラミン
- 4 塩酸エチルシステイン
- 5 塩酸ジフェンヒドラミン

問3 かぜの症状の緩和に用いられる漢方処方製剤のうち、カンゾウを含まないものはどれか。

- 1 香蘇散こうそさん
- 2 小柴胡湯しょうさいことう
- 3 葛根湯かっこんとう
- 4 半夏厚朴湯はんげこうぼくとう
- 5 麦門冬湯ぼくもんとうとう

問4 痛みや発熱が起こる仕組み、解熱鎮痛薬の働きに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 痛みや発熱は、体内で産生されるプロスタグランジンの働きによって生じる。
- 2 解熱鎮痛薬は、痛みや発熱の原因となっている病気や外傷自体を治すものである。
- 3 腹痛を含む痙攣性けいれんの内臓痛については、一部の漢方処方製剤を除き、解熱鎮痛薬の効果は期待できない。
- 4 月経痛（生理痛）は、月経そのものが起こる過程にプロスタグランジンが関わっていることから、解熱鎮痛薬の効能・効果に含まれている。

問5 鎮暈薬うん（乗物酔い防止薬）の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アミノ安息香酸エチルが配合されている場合には、6歳未満への使用は避ける必要がある。
- b 抗ヒスタミン成分は、延髄ずいにある嘔吐中枢おうへの刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示す。
- c 塩酸ジフェニドールは、白内障の診断を受けた人では、その症状を悪化させる。
- d 臭化水素酸スコポラミンは、肝臓で緩やかに代謝されるので、抗ヒスタミン成分と比べて作用の持続時間は長い。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (c、d)

問6 呼吸器官に作用する薬に含まれる成分とその成分の配合目的に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

成分	配合目的
a 塩酸メチルエフェドリン	・・・ 痰の切れを良くする成分（去痰成分）
b 塩化リゾチーム	・・・ 炎症を和らげる成分（抗炎症成分）
c 塩酸ブロムヘキシン	・・・ 気管支を拡げる成分（気管支拡張成分）
d リン酸コデイン	・・・ 中枢神経系に作用して咳を抑える成分（鎮咳成分）

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問7 口腔咽喉薬や含嗽薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ヨウ素系殺菌消毒成分が口腔内に使用される場合、結果的にヨウ素の摂取につながり、甲状腺におけるホルモン産生に影響を及ぼす可能性がある。
- 2 口腔咽喉薬に抗ヒスタミン成分が配合されている場合、鎮咳去痰薬のように、咳に対する薬効も合わせて標榜することができる。
- 3 塩化リゾチームは口腔咽喉薬や含嗽薬の配合成分として使用された場合であっても、ショック（アナフィラキシー）や皮膚粘膜眼症候群のような重篤な副作用を生じることがある。
- 4 アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）は、炎症を生じた粘膜組織の修復を促す作用を期待して配合される場合がある。

問8 腸の薬、その配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩酸ロペラミドが配合された一般用医薬品の止瀉薬は、腸管の運動を低下させる作用を示し、胃腸鎮痛鎮痙薬の併用は避ける必要があり、また、15歳未満の小児には適用がない。
- b ヒマシ油は、腸内容物の緩やかな排除を目的として用いられるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性にも使用できる。
- c 次没食子酸ビスマス等のビスマスを含む成分については、海外において長期連用した場合に精神神経症状が現れたとの報告があり、一週間以上継続して使用しないこととされている。
- d タンニン酸アルブミンに含まれるアルブミンは、卵に含まれる蛋白質（カゼイン）から精製された成分であるため、卵にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、c)

問9 ビタミンに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンB2 . . . 腸管でのカルシウム吸収及び尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。
- b ビタミンE . . . 体内の脂質を酸化から守り、細胞の活動を助ける栄養素であり、血流を改善させる作用もある。
- c ビタミンA . . . 夜間視力を維持したり、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- d ビタミンB6 . . . 炭水化物からのエネルギー産生に不可欠な栄養素で、神経の正常な働きを維持する作用がある。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |

問 10 漢方の特徴・基本的な考え方に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 漢方処方製剤は、症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用されることがある。
- b 漢方処方製剤は、用法用量に適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後6ヶ月未満の乳児には使用しないこととされている。
- c 漢方薬は、漢方の考え方に沿うように、生薬が一定の規則によって組み合わせて構成されたものである。
- d 漢方処方製剤は、副作用が少ないため、間質性肺炎や肝機能障害のような重篤な副作用が起きることはない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	正	正	誤	誤

問 11 生薬成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 サンザシとは、バラ科のサンザシ又はオオサンザシの偽果を用いた生薬で、解熱、鎮痙等の作用を期待して用いられる。
- 2 ブクリョウとは、サルノコシカケ科のマツホドの菌核を用いた生薬で、発汗、解熱、鎮痛、鎮痙等の作用を期待して用いられる。
- 3 センブリとは、リンドウ科のセンブリの開花期の全草を用いた生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
- 4 オウゴンとは、シソ科のコガネバナの葉を用いた生薬で、抗炎症作用を期待して用いられる。

問 12 殺菌消毒成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 エタノールは、アルコール分が微生物の蛋白質を変性させ、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、ウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- 2 次亜塩素酸ナトリウムは、強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用がある。
- 3 クレゾール石鹼液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対する殺菌消毒作用を示すが、刺激性が強いため、原液が直接皮膚に付着しないようにする必要がある。
- 4 サラシ粉は、強い還元力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用がある。

問 13 殺虫剤の剤型、用法に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- | | | | |
|---|--------|-----|---|
| a | 乳剤・水和剤 | ・・・ | 原液を水で希釈して使用するものである。 |
| b | 燻蒸剤 | ・・・ | 殺虫成分を基剤に混ぜて整形し、加熱したとき又は常温で徐々に揮散するようにしたものである。 |
| c | 毒餌剤 | ・・・ | 対象とする衛生害虫を誘引する成分を配合し、マット状、ペレット状、ペースト状等にしたものである。 |
| d | 蒸散剤 | ・・・ | 容器中の医薬品を煙状又は霧状にして一度に全量放出させるものである。 |

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	正	正

問 14 次の記述にあてはまる漢方処方製剤はどれか。

疲れやすく、四肢が冷えやすく、尿量減少又は多尿で、ときに口渇がある人における、下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目、^{かゆ}痒み、排尿困難、頻尿、むくみの症状に適す。

- 1 麻黄湯 2 八味地黄丸 3 柴胡桂枝湯 4 四物湯 5 乙字湯

問 15 解熱鎮痛成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a	アスピリン	一般用医薬品では小児(15歳未満)に対しては注意して使用することとなっている。
b	アセトアミノフェン	内服薬のほか、アセトアミノフェンが配合された坐薬もある。一般の生活者においては、坐薬と内服薬とでは影響し合わないとの誤った認識がされている場合があるので注意が必要である。
c	イブプロフェン	アスピリンに比べて胃腸への影響が少ない。一般用医薬品では小児向けの製品はない。
d	イソプロピルアンチピリン	一般用医薬品では唯一のピリン系解熱鎮痛成分である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 16 鎮咳去痰薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

1	臭化水素酸デキストロメトルファン	依存性がある成分であり、麻薬性鎮咳成分とも呼ばれる。
2	塩酸トリメトキノール	気管支を収縮する成分で、心臓病、高血圧、糖尿病又は甲状腺機能障害の診断を受けた人では症状を悪化させるおそれがある。
3	カンゾウ	グリチルリチン酸を含む生薬成分で、抗炎症作用、気道粘膜からの分泌を促す等の作用が期待できる。大量に摂取すると偽アルドステロン症を起こすおそれがある。
4	マレイン酸カルビノキサミン	咳や喘息、気道の炎症は、アレルギーに起因することがあり、鎮咳成分等の働きを助ける目的で配合されることがある。気道粘膜での粘液分泌を促進することで痰を出しやすくする効果がある。

問 17 胃の薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a	酸化マグネシウム	制酸成分で、瀉下薬に配合される成分でもあり、下痢等の症状に注意することも重要である。
b	ケイヒ	香りによる健胃作用を期待して用いられる。
c	スクラルファート	消化管内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として配合される。
d	塩酸ピレンゼピン	胃液分泌抑制成分で、胃腸鎮痛鎮痙薬、乗物酔い防止薬との併用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	正	正	正	正

問 18 アレルギー用薬の配合成分、漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a	塩酸ジフェンヒドラミン	抗ヒスタミン成分で、吸収されたジフェンヒドラミンの一部が乳汁に移行して乳児に昏睡を生じるおそれがあるため、母乳を与える女性は使用を避けるか、使用する場合には授乳を避ける必要がある。
b	塩酸メチルエフェドリン	アドレナリン作動成分で、依存性がある成分であり、長期間に渡って連用された場合、薬物依存につながるおそれがある。
c	塩酸プソイドエフェドリン	アドレナリン作動成分で、他のアドレナリン作動成分に比べて末梢神経系に対する作用が強く、副作用として便秘が現れることがある。
d	十味敗毒湯 <small>じゅうみはいどくとう</small>	漢方処方製剤で、短期間の使用に限られるものではないが、化膿性皮膚疾患・急性皮膚疾患の初期、急性湿疹 <small>しんじん</small> に用いる場合は、漫然と長期の使用は避け、1週間位使用して症状の改善がみられないときは、いったん使用を中止して専門家に相談がなされることが望ましい。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	正	誤
5	正	正	正	正

問 19 妊娠検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日の概ね1週間前の検査が推奨されている。
- b 検体としては、尿中ヒト絨毛性性腺刺激ホルモンが検出されやすい就寝直前の尿が向いているが、尿が濃すぎると、かえって正確な結果が得られないこともある。
- c 検査薬が高温になる場所に放置されたり、冷蔵庫内に保管されていたりすると、設計どおりの検出感度を発揮できなくなるおそれがある。
- d 子宮外妊娠や胎状奇胎などを生じている場合には、妊娠しているにもかかわらず検査結果が陰性となることがある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	正	正	正

問 20 次の記述にあてはまる殺菌消毒成分はどれか。

黄色の色素で、一般細菌類の一部(連鎖球菌、黄色ブドウ球菌などの化膿菌)に対する殺菌消毒作用を示すが、真菌、結核菌、ウイルスに対しては効果がない。

- 1 アクリノール
- 2 オキシドール
- 3 ポピドンヨード
- 4 ヨードチンキ

問 21 胃腸に作用する薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 健胃薬、消化薬、整腸薬又はそれらの目的を併せ持つものには、医薬部外品として製造販売されている製品もあり、それらは人体に対する作用が緩和なものとして、配合できる成分やその上限量が定められているが、効能・効果の範囲は医薬品と同じである。
- 2 制酸薬は胃液の分泌亢進による胃酸過多や、それに伴う胸やけ、腹部の不快感、吐き気等の症状を緩和することを目的とする医薬品である。
- 3 消化薬は、弱った胃の働きを高めることを目的とする医薬品である。
- 4 健胃薬は、炭水化物、脂質、蛋白質等の分解に働く酵素を補う等により、胃や腸の内容物の消化を助けることを目的とする医薬品である。

問 22 点眼薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 点眼の際に容器の先端が眼瞼（まぶた）や睫毛（まつげ）に触れると、雑菌が薬液に混入して汚染を生じる原因となる。
- b 一度に何滴も点眼すると効果は増すが、鼻粘膜や喉から吸収されて、副作用を起こしやすくなる。
- c コンタクトレンズをしたままでの点眼は、添付文書に使用可能と記載されてない限り行わないことが望ましい。
- d 全身性の副作用として、皮膚に発疹、発赤、痒みが現れることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問 23 漢方の考え方に関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、() 内の同じ文字の場所には、同じ字句が入る。

患者の証(体質及び症状)に基づく考え方とは、体質を(a)と(b)とに分類し、それに応じて処方を選択する考え方である。

(a)とは、体内の臓器を働かせるエネルギーの貯蔵量が少ない体質(体力の衰えている人、体の弱い人)をいい、(b)とは、そうしたエネルギーの貯蔵量が多い体質(比較的体力がある状態)を指す。

症状については、(c)と(d)とに分類される。(c)とは、実際に使用するエネルギーが少ないため臓器の機能が低下している状態であり、(d)とは、実際に使用するエネルギーが多いため臓器の機能が亢進している状態をいう。

	a	b	c	d
1	陰証	陽証	虚証	実証
2	陽証	陰証	実証	虚証
3	実証	虚証	陽病	陰病
4	虚証	実証	陰病	陽病

問 24 眠気を防ぐ薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 カフェインは、脳に軽い鎮静状態を引き起こす作用を示す。
- 2 カフェインは、腎臓での水分の再吸収を促進するとともに、膀胱括約筋を緊張させる働きがあり、尿量の減少をもたらす。
- 3 眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量はカフェインとして500mg、1日摂取量では1000mgが上限とされている。
- 4 成長期にある小児の発育には睡眠が重要であり、眠気防止薬に小児向けの製品はない。

問 25 かぜ薬に配合される成分のうち、その名称と配合目的が正しい組み合わせはどれか。

	成分	配合目的
1	エテンザミド	解熱鎮痛成分
2	トラネキサム酸	鎮咳成分
3	ノスカピン	去痰成分
4	ブロメライン	くしゃみや鼻汁を抑える成分

問 26 次の記述にあてはまるビタミンはどれか。

赤血球の形成を助け、また、神経機能を正常に保つために重要な栄養素である。

- 1 ビタミンB1
- 2 ビタミンB5
- 3 ビタミンB12
- 4 ビタミンD

問 27 ビタミン成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a	酪酸リボフラビン	骨歯の発育不良、くる病の予防に用いられる。
b	パントテン酸カルシウム	しみ、そばかす、歯ぐきからの出血の予防、日焼け・かぶれによる色素沈着の症状の緩和に用いられる。
c	塩酸チアミン	神経痛、筋肉痛、関節痛（腰痛、肩こり等）、脚気の症状の緩和に用いられる。
d	パルミチン酸レチノール	目の乾燥感、夜盲症の症状の緩和に用いられる。

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

問 28 次の成分が配合されている外用痔疾用薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1 g 中	リドカイン	30 mg
	酢酸プレドニゾロン	1 mg
	マレイン酸クロルフェニラミン	2 mg
	クロルヘキシジン塩酸塩	2.5 mg
	トコフェロール酢酸エステル	25 mg
	セイヨウトチノキ種子エキス	4.17 mg

- 1 局所麻酔成分としてリドカインが含まれているので、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることがある。
- 2 抗炎症成分として酢酸プレドニゾロンが含まれているので、長期連用を避ける必要がある。
- 3 痔疾患に伴う局所の感染を防止するために、殺菌消毒成分としてマレイン酸クロルフェニラミンが含まれている。
- 4 血行促進、抗炎症等の作用を期待してセイヨウトチノキ種子エキスが含まれている。

問 29 外皮用薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a インドメタシンを含む外皮用薬は、妊婦又は妊娠していると思われる女性では、胎児への影響を考慮して、使用を避けることが望ましい。
- b ケトプロフェンを含む外皮用薬は、まれに重篤な副作用として光線過敏症を生じることがある。
- c サリチル酸メチルは、皮膚から吸収された後、サリチル酸に分解されて、主として局所刺激により患部の血行を促し、また、末梢の知覚神経に軽い麻痺を起こすことにより、鎮痛作用をもたらすと考えられている。
- d ステロイド性抗炎症成分をコルチゾンに換算して1 g 又は1 mL 中0.025 mg を超えて含有する外皮用薬では、長期連用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	正	正	正	正

問 30 歯痛薬又は歯槽膿漏薬(そうのうろう)に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 歯痛薬(外用)に含まれるアミノ安息香酸エチルは、知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮めることを目的として用いられる。
- b 歯痛薬(外用)に用いられるサンシュユは、ミズキ科のサンシュユの偽果の果肉を用いた生薬で、抗炎症作用を期待して用いられる。
- c グルコン酸クロルヘキシジンが口腔内に適用される場合、まれに重篤な副作用としてアナフィラキシーを生じることがある。
- d 歯槽膿漏薬(外用)に含まれているグリチルリチン酸二カリウムは、歯周組織の修復を促すことを目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	正	正	正

問 31 禁煙補助剤(そしやく)に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ニコチンは、交感神経系を鎮める作用を示し、アドレナリン作動成分が配合された医薬品との併用により、その作用を増強させるおそれがある。
- b 口腔内が酸性になると、ニコチンの吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔内を酸性にする食品を摂取した後、しばらくは使用を避けることとされている。
- c 妊婦又は妊娠していると思われる女性、母乳を与える女性では、摂取されたニコチンにより胎児又は乳児に影響が生じるおそれがあるため、使用を避ける必要がある。
- d 葉子のガムのように噛むと、唾液が多く分泌され、ニコチンが唾液とともに飲み込まれてしまい口腔粘膜からの吸収が十分なされない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

問 32 滋養強壯保健薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カシユウ、ゴオウ、ゴミシ、ジオウ、ロクジョウは、医薬部外品に配合することができる。
- b 薬用酒は、血行を促進させる作用があることから、手術や出産の直後等で出血しやすい人では使用を避ける必要がある。
- c ビタミン成分は、多く摂取したからといって適用となっている症状の改善が早まるものでなく、むしろ脂溶性ビタミンでは、過剰摂取により過剰症を生じるおそれがある。
- d ビタミンの補給を目的とした医薬部外品は、神経痛、しみ、そばかすの症状についての効能効果も認められている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	正	正

問 33 生薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a レンギョウ :モクセイ科のレンギョウ又はシナレンギョウの果実を用いた生薬で、健胃、消化促進等の作用を期待して用いられる。
- b ブシ :キンポウゲ科のハナトリカブトの塊根であり、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を持つ。
- c ユウタン :クマ科のヒグマ又はその他近縁動物の胆汁の乾燥物を用いた生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられるほか、消化成分として配合される場合もある。
- d ウワウルシ :ツツジ科のクマコケモモの葉であり、利尿、健胃、鎮静等の作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 34 駆虫薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 複数の駆虫薬の併用で駆虫効果が高まる。
- b 食事を摂って消化管内に内容物があるときに使用すると、消化管内容物の消化・吸収に伴って駆虫成分の吸収が高まることから、空腹時に使用することとされているものが多い。
- c 駆除した虫体や腸管内に残留する駆虫成分の排出を促すためヒマシ油を併用する。
- d 駆虫薬は、腸管内に生息する虫体にのみ作用し、腸管内の虫卵には駆虫作用が及ばないので、それが成虫となった頃に、あらためて使用しないと完全に駆除できない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問 35 忌避剤・殺虫剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 忌避剤は人体に直接使用されるもので、蚊、ツツガムシ等が人体に取り付いて吸血した部位の痒みや腫れの症状を和らげる効果がある。
- b 忌避剤を使用する際、薬剤によっては合成繊維やプラスチック製品の腐食を生じることがある。
- c ジクロロボスなど有機リン系殺虫成分は、アセチルコリンを分解する酵素（コリンエステラーゼ）の働きを阻害することによって殺虫作用を示す。
- d プロポクスルなどのカーバメイト系殺虫成分は、コリンエステラーゼと不可逆的に結合し、その働きを阻害することによって殺虫作用を示す。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	誤

問 36 尿糖・尿蛋白検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 尿糖値に異常を生じる要因は、一般に高血糖と結びつけて捉えられることが多いが、腎性糖尿、妊娠糖尿等のように高血糖を伴わない場合もある。
- b 採尿のタイミングは、原則として尿糖の検体の場合は早朝尿（起床直後の尿）、尿蛋白の検体の場合は食後 1～2 時間とされている。
- c 検査薬は、長い間尿に浸していると、より正確な検査結果が得られる。
- d 医薬品の中には、尿検査の結果に影響を与える成分を含むものがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	正

問 37 貧血用薬の配合成分とその作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 銅は鉄の代謝や輸送に重要な役割を持つため、補充した鉄分を利用してヘモグロビンが産生されるのを助ける目的で、硫酸銅が配合されている場合がある。
- b 亜鉛は消化管内で鉄を吸収されやすい形態（ヘム鉄）に保つため、硫酸亜鉛が配合されている場合がある。
- c コバルトは赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB12の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸コバルトが配合されている場合がある。
- d マンガンは糖質・脂質・蛋白質の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で、硫酸マンガンが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	正

問 38 毛髪用薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 塩化カルプロニウムは、末梢組織（適用局所）において、頭皮の血管を収縮、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して用いられる。
- b 塩化カルプロニウムの副作用として、コリン作用による局所又は全身性の発汗、それに伴う寒気、震え、吐き気が現れることがある。
- c 脱毛は男性ホルモンの働きが過少であることも一因とされているため、男性ホルモン成分の一種である安息香酸エストラジオールが配合されている場合がある。
- d 生薬成分であるチクセツニンジン（ウコギ科トチバニンジン）の根を用いた生薬で、血行促進、抗炎症などの作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問 39 みずむしとその治療薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a みずむしは、皮膚糸状菌（白癬菌）という真菌類の一種が皮膚に寄生することによって起こる表在性真菌感染症である。
- b イミダゾール系抗真菌薬は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。
- c 湿疹とみずむしの初期症状は類似していることが多く、湿疹に抗真菌作用を有する成分を使用すると、かえって湿疹の悪化を招くことがある。
- d みずむしの基礎的なケアは、足（特に、指の間）を毎日石鹸で洗った後、できるだけ保湿した状態に保つことである。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	誤

問 40 次の記述にあてはまる漢方処方製剤はどれか。

くしゃみや鼻汁・鼻閉（鼻づまり）等の鼻炎症状、薄い水様の痰を伴う咳、気管支炎、気管支喘息等の呼吸器症状に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。まれに重篤な副作用として、肝機能障害、間質性肺炎を生じることが知られている。

- 1 小青竜湯しょうせいりゅうとう
- 2 七物降下湯しちもつこうかとう
- 3 防己黄耆湯ぼういおうぎとう
- 4 大黄甘草湯だいおうかんぞうとう